

LIPI PPTTG(Pusat Pengembangan Teknologi Tepat Guna, Lembaga Ilmu Pengetahuan Indonesia、インドネシア科学院適正技術開発センター)訪問記録

[日時] 2018年9月19日(水) 9:30 – 13:00

[場所] PPTTG LIPI

Jl.K.S. Tubun No.5 Subang, Jawa Barat 41213 Indonesia

[先方] Dr.Pranomo Nugroho(センター長)、Prof.Dr.Ir.Rachmini Saparita, M.T (農業情報コミュニケーション部門教授)他、計14名

[当方] 田中直、堀尾孝子

[内容]

はじめに、LIPI側から、ビデオによるLIPIならびにPPTTGの概要説明があった。PPTTGは、1986年設立で、インドネシアの農業部門の発展をめざして、農業の収穫物の加工を中心に、研究開発と、開発した技術の普及活動を行っている。関連する研修ならびにコンサルティングも実施。現在の職員は120名、うち研究者53名である。手がけている技術の例として、以下のようなものがある

- ・小麦粉代替製品
バナナ粉、キャッサバ粉など
- ・トウモロコシ麺
- ・木酢液(木材、ココナッツの殻などより)
- ・バナナフレーク、バナナバー
- ・果実ジュース
- ・ブリケット生産
- ・加工食品の包装

次にAPEX側から、APEXで取り組んでいる排水処理技術やバイオマスエネルギー開発技術について紹介した。

PPTTGで開発した技術をいかに地域に根付くようにするかについては、はじめの導入時は、無料で設備を提供し、住民にトレーニングを行う、とのことであった。その設備を製造する業者が必要ではないかと聞くと、それはプライベートセクターが自分でやることという返事であった。

これまでの成功例を聞いたが、PPTTGのあるスパンではうまくいっているとのこと、他にスラウェシのチョコレート生産や南スマトラの木酢液は順調とのことであった。

適正技術の定義については、APEXと同じ考えであるとのこと。

ついで、PPTTG 内の見学を行った。機械工作のワークショップ(訪問時は、コーヒーの殻剥き機、焙煎機などを試作中)、果物や野菜の加工ユニット(イタリアから導入した大型のもので、実際に使われるのはもっと小さい)、バー状の加工食品(バナナバーなど)の試作設備などがあった。

(感想)

一次産品を、住民が参加しやすい技術で加工して付加価値を高める発想はいいが、技術的に格別新しさを感じるものは少なかった。また、開発した技術が、どこまでそれぞれの地域に根付いているのかが不明であった。(田中)

(受領資料)

Saparita, R. “Membangun Sistem Inovasi Pertanian Daerah untuk Meningkatkan Pemanfaatan Teknologi pada Masyarakat Tani”, LIPI Press 2017

LIPI “Geliat Desa Terpencil Pengguna PLTMH”LIPI Press

LIPI “Pembangunan di Kabupaten Poso”LIPI Press 2006



適正技術開発センター本部



本部でのミーティング



機械工作のワークショップ



果実、野菜の処理プラント